

「共通テスト対策【実力完成】直前演習」
ご活用に関するアンケート

集計結果のご報告

このたびのアンケートにご協力いただいた先生方に、厚く御礼申し上げます。
集計結果のご報告をさせていただきます。
先生方からいただいたご意見をもとに、お役立ていただける教材・サービスの提供
に努めてまいります。

2021/4/16

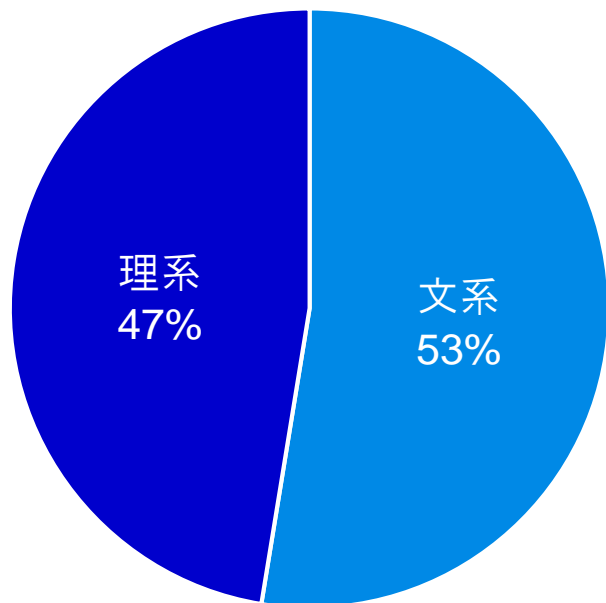


1) アンケートの概要

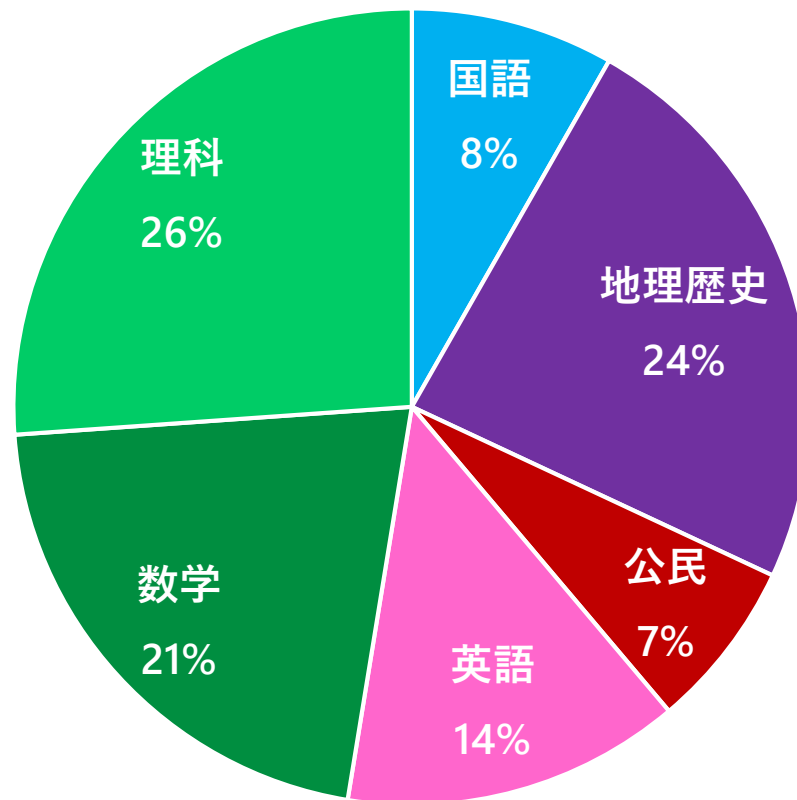
調査テーマ	「2021共通テスト対策【実力完成】直前演習」のご活用に関するアンケート
調査方法	WEBまたは紙（郵送）によるご回答
調査対象	弊社教材「共通テスト対策【実力完成】直前演習」をご採用いただいた全国の先生
調査時期	2021年2月16日（火）～ 2021年3月15日（月）
有効回収数	21～298件（質問によって回収数が異なります）

2) ご回答の状況

文系・理系の割合

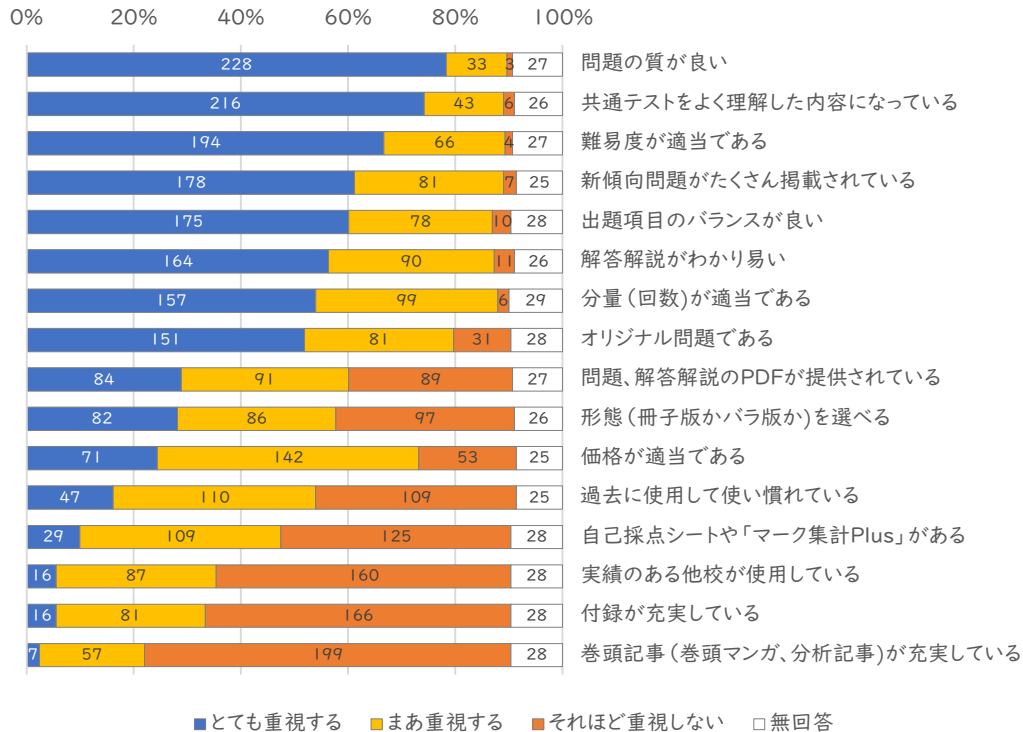


教科の割合

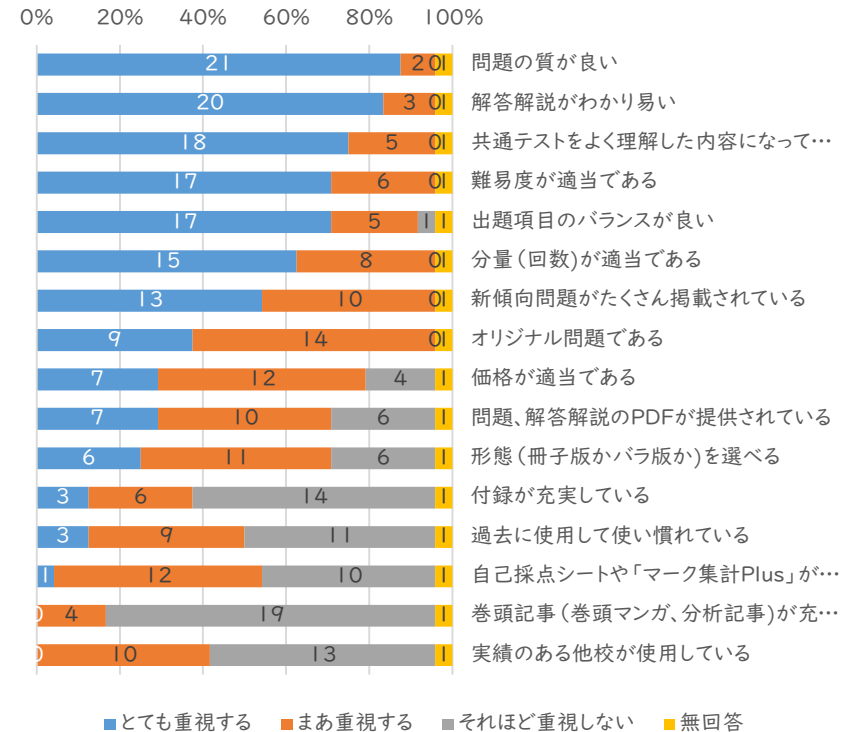


Q1 共通テスト対策教材の選定で重視されたこと（ご採用のポイント）

全体



【国語】

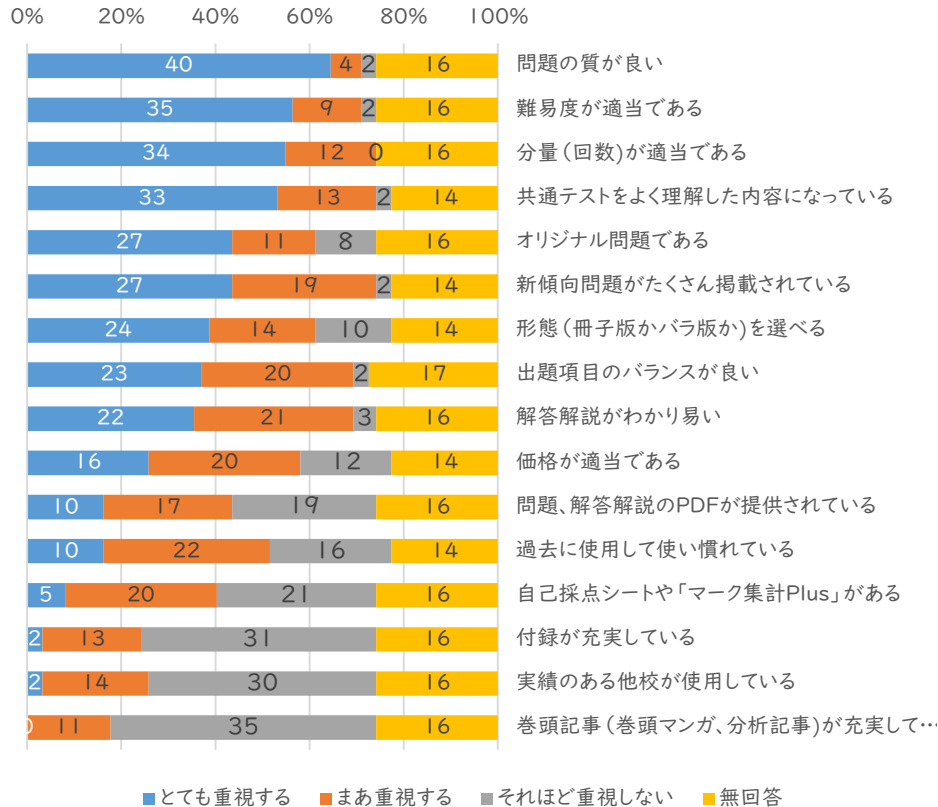


【全体】「問題の質」、「難易度」、「出題項目のバランス」といった“中味”を重視されています。また、共通テスト初年度ということから、「共通テストをよく理解した内容」、「新傾向問題を多く掲載」も重視されています。「わかり易い解答解説」もポイントになっています。教材の中味以外では、「分量(回数)が適当」を半数以上が重視されています。また、「PDFの提供」、「形態を選べる」もポイントになっています。

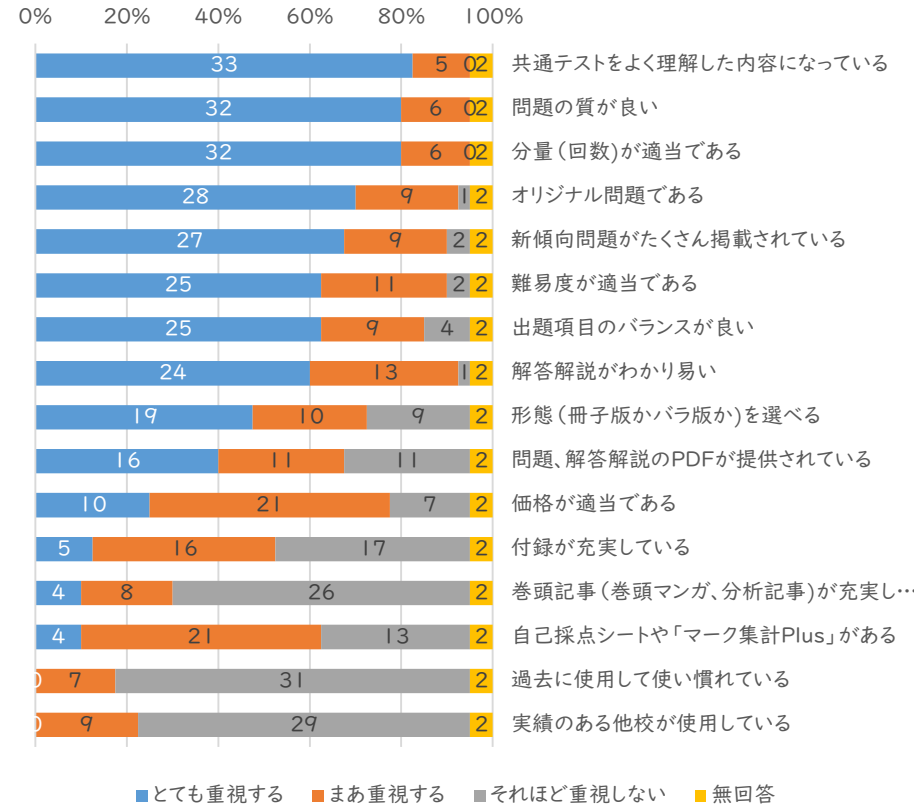
【国語】「問題の質が良い」、「解答解説がわかり易い」、「共通テストをよく理解した内容」の順にポイントが高いです。

Q1 共通テスト対策教材の選定で重視されたこと（ご採用のポイント）

【数学】



【英語】

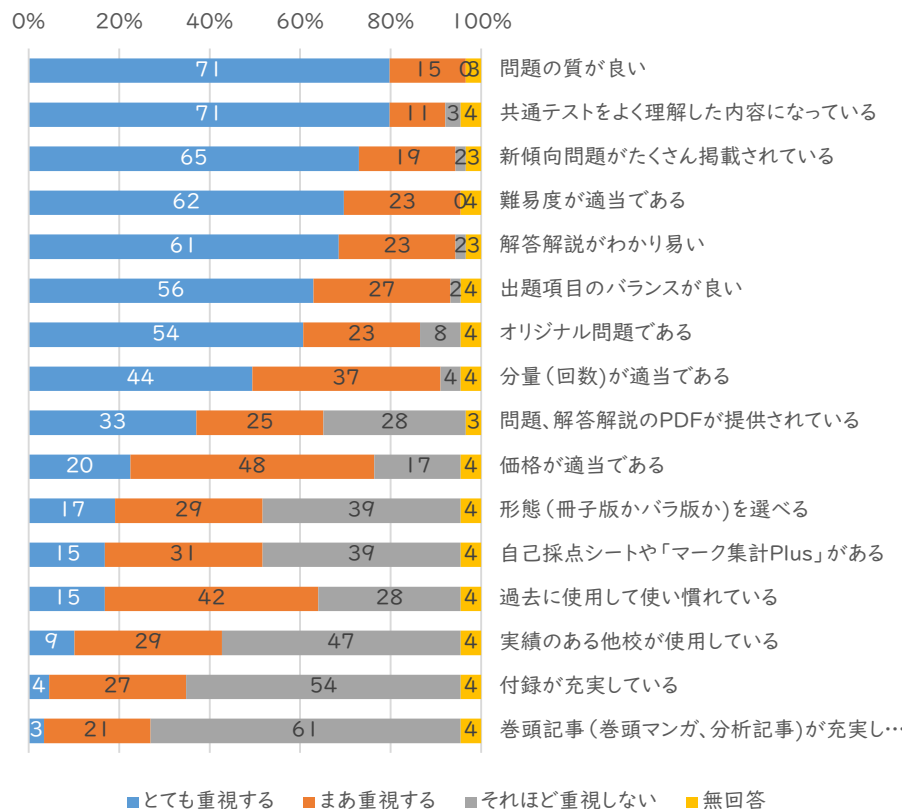


【数学】 「問題の質が良い」、「難易度が適当である」、「分量(回数)が適当である」の順にポイントが高いです。

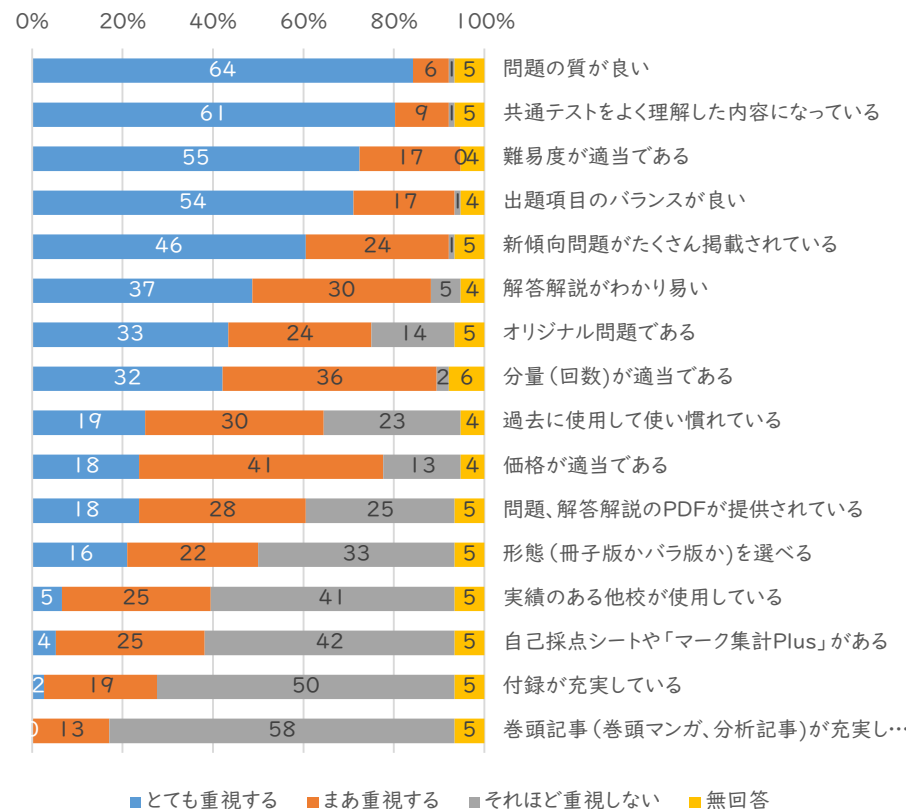
【英語】 「共通テストをよく理解した内容」、「問題の質がよい」、「分量(回数)が適当である」の順にポイントが高いです。

Q1 共通テスト対策教材の選定で重視されたこと（ご採用のポイント）

【地歴公民】



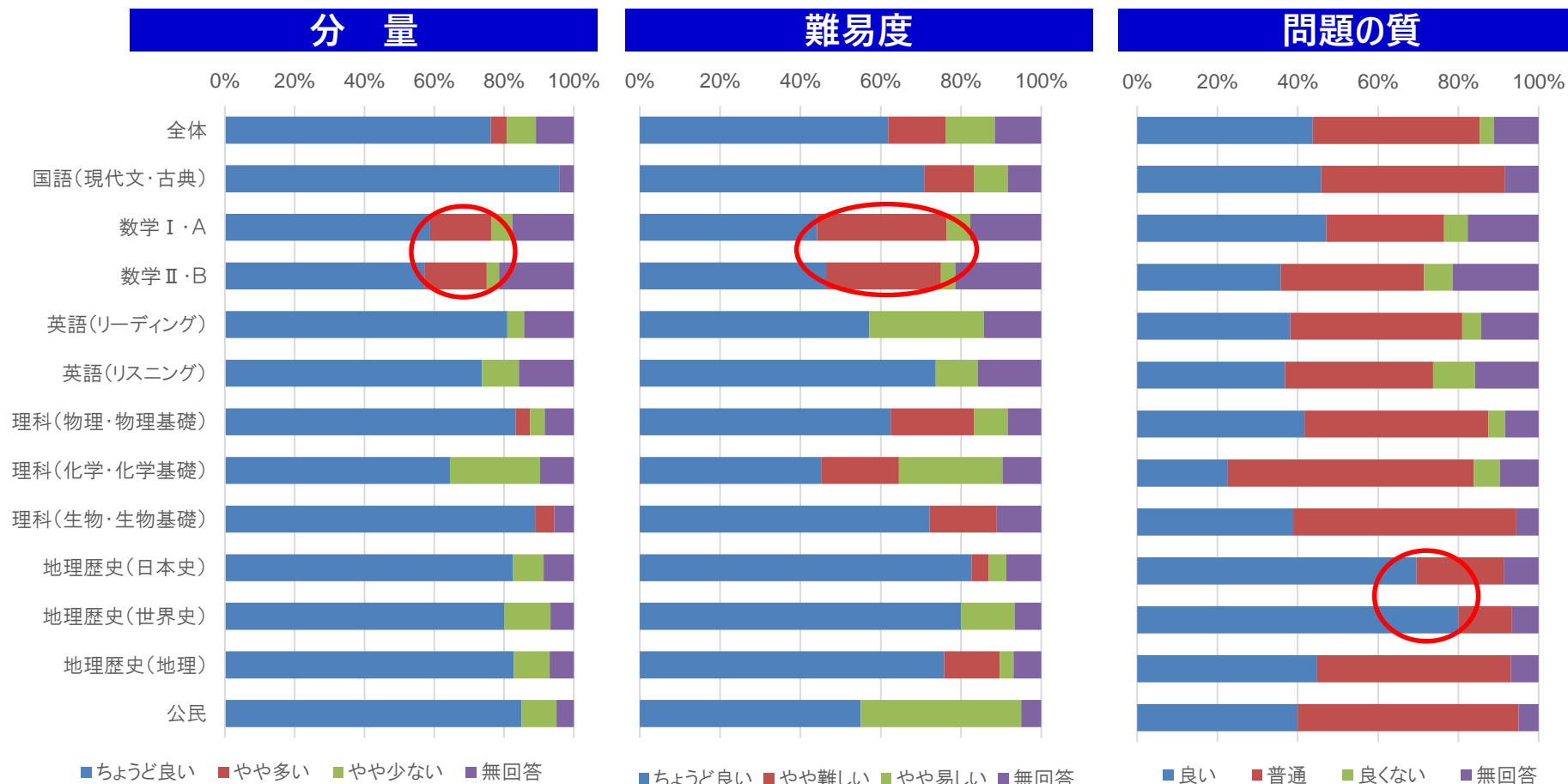
【理科】



【地歴公民】「問題の質がよい」、「共通テストをよく理解した内容」、「新傾向問題がたくさん掲載されている」の順にポイントが高いです。

【理科】「問題の質がよい」、「共通テストをよく理解した内容」、「難易度が適当である」の順にポイントが高いです。

Q2-1 「直前演習」をお使いいただいた際の「分量」、「難易度」、「問題の質」の評価



「分量」については、概ね良い評価です。「難易度」は、教科・科目によって評価に違いがあります。「問題の質」については、分量や難易度にくらべて厳しい目で評価されています。

「数学」は、分量がやや多く、やや難しいという評価です。

「日本史」「世界史」は、分量・難易度・問題の質ともに、比較的高い評価です。

Q2-2 「直前演習」に対するご要望

国語

・解答用紙(マークシート)が設問ごとになっているが、共通テスト本番は、設問ごとではない。そのため、本番でマークミスをした生徒がいた。**共通テストでのマークシートと同じように、設問ごとに分けられない形にしてほしい。**※解答番号をよく見ずにマークした生徒が悪いのですが、日頃から本番と同じ形のマークシートで練習をさせたいと思います。是非お願いします。

⇒対応します。「2022直前演習」では、共通テストと同様のマークシート(解答用紙)にします。

数学

・新傾向を意識した結果、難易度が上がった。特に数ⅡBはとても難しく**今回の本番を通しての改訂**を望みます。

・ⅠAは全体的に良かったと思います。**ⅡBは数学ができる層が60分を大きくオーバーしてしまうことはないように**していただきたい。

・バランス良く出題されており、演習で鍛えていくことができました。**さらに改訂されていくことで本番の試験対策として使いやすい問題集になることと期待しております。**

⇒対応します。「2022直前演習」では、2021共通テストを踏まえて、分量、難易度を定めます。

英語(リーディング・リスニング)

・**リーディングの音声データがあるとさらに嬉しい。**

・結果的には、共通テストのほうがより思考力を問う問題が多く出て、問題集の方が簡単になった。英文が読めれば答えが出る問題集(ある意味正統な問題集)で慣れていると、英文だけでない思考を求められると難しい生徒もいた。

⇒対応します。「2022直前演習英語(リーディング)」では、一部の素材の音声をダウンロードもしくは2次元コードでお聞きいただけるようにします。

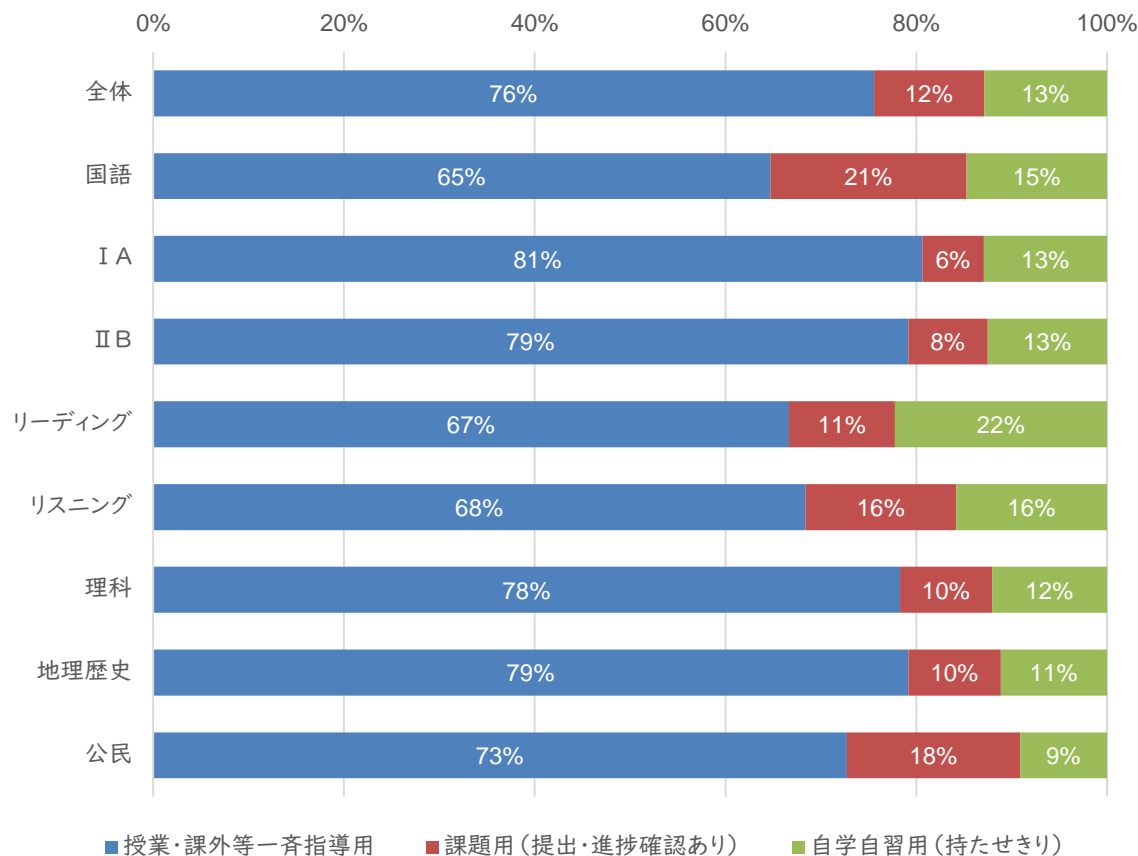
多くのお声をいただいております。「2022直前演習」では改善してまいります。

なお、「直前演習」の難易度については、共通テストの平均得点率を5~6割と想定し、本番よりも若干難しい回を設けております。また、各教科・科目の「活用ガイド」に各回の難易度を示しておりますので、参考にしてください。

Q2-2 「直前演習」に対するご要望

理科(物理・物理基礎)	・共通テスト本番の方が簡単に感じた。次年度も、難易度はこの水準を維持していただきたい。
理科(化学・化学基礎)	・化学は共通テストでセンターより難化したため、本番の共テより難しいくらいの問題で演習しないといけないと思っています。
地理歴史(地理)	・共通テストを解いてみると、やはり読解力、思考力をみる問題が、いくつも出てきたので、それらが必要な問題を、これからもお願いしたい。
地理歴史(日本史)	・ちょうどよいにしましたが、回数はあと1、2回あってもいいです。
地理歴史(世界史)	・今年度に関しては、新傾向の問題が多く、ありがたかったです。

Q3-1 「直前演習」のご活用状況について【活用シーン】



全体では、「授業・課外等一斉指導」でのご活用は76%です。10年前の同様のアンケートでは「授業・課外等一斉指導」でのご活用が86%で、当時に比べて、「課題用」、「自学自習用」の割合がそれぞれ増えました。

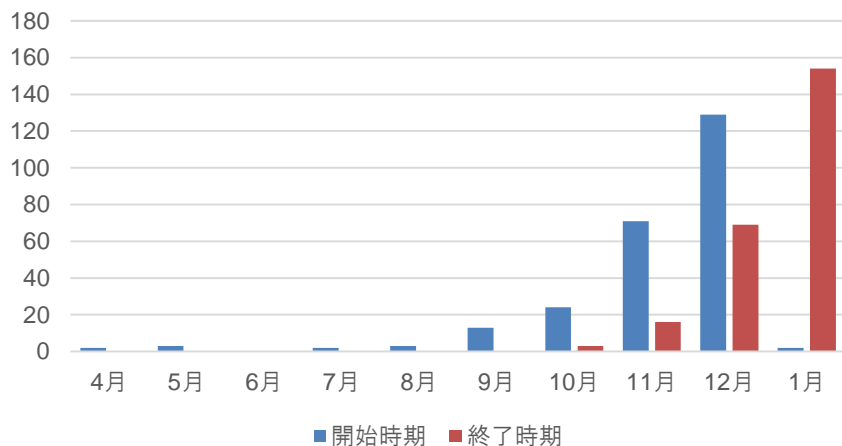
数学、理科、地歴公民は、「授業・課外等一斉指導」でのご活用の割合が比較的高いです。

国語は、「課題用」の割合が比較的高く、採用ポイントで「解答解説がわかり易い」を重視されることとも関連しています。

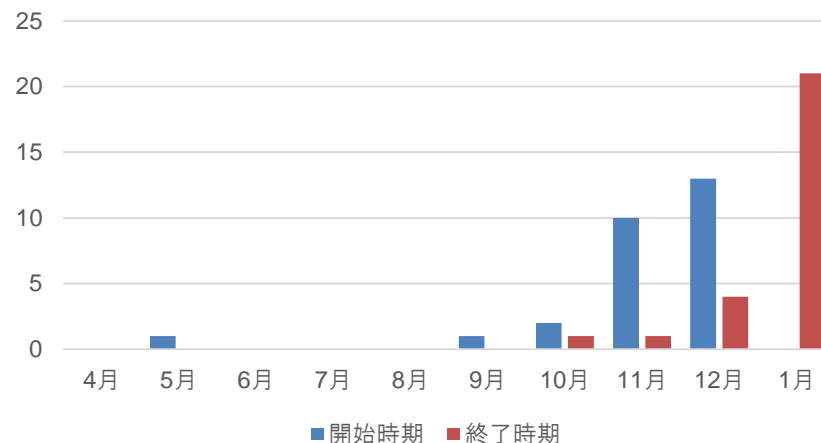
英語（リーディング）は、他の教科・科目にくらべて「自学自習用」の割合が高いです。

Q3-2 「直前演習」のご活用状況について【活用時期】

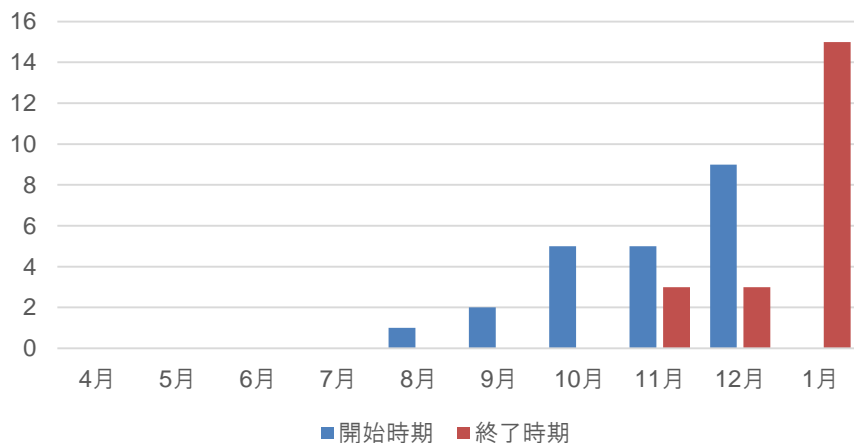
全体



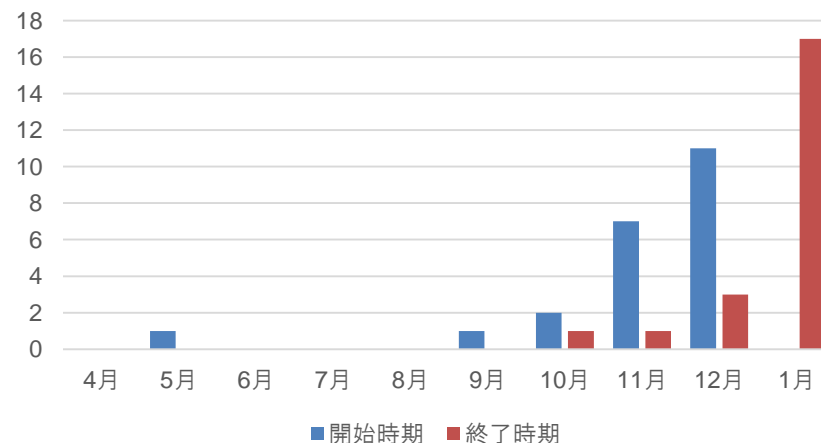
I A



国語



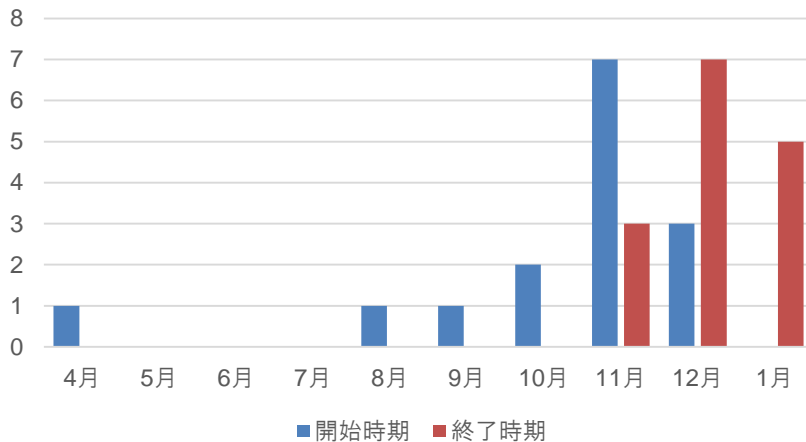
II B



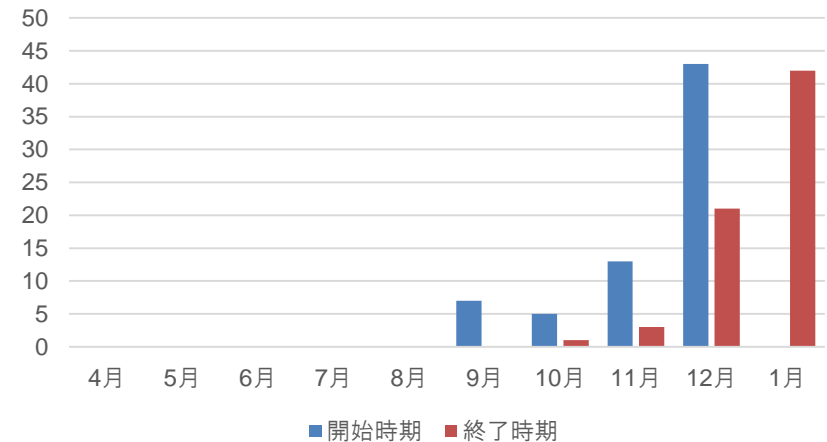
全体で見ると、使用開始時期は12月（約5割）、終了時期は1月（約6割）が多く、国語、数学は全体とほぼ同じ状況でした。

Q3-2 「直前演習」のご活用状況について【活用時期】

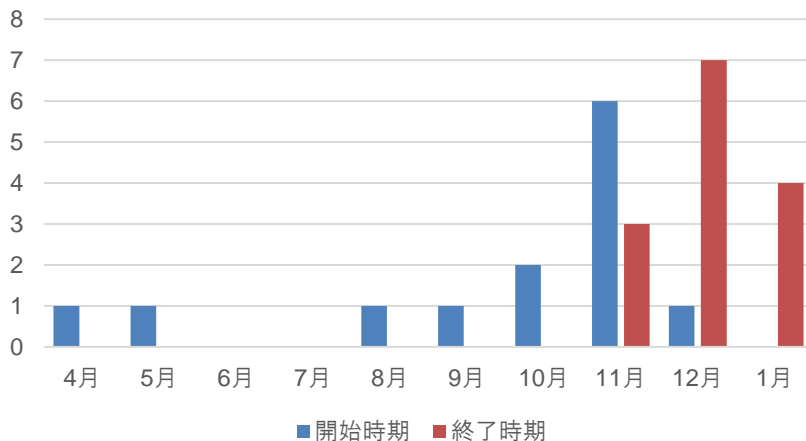
英語(リーディング)



理科



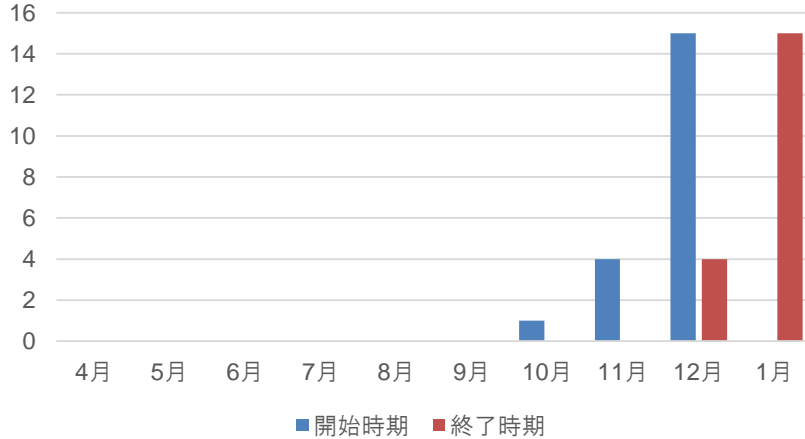
英語(リスニング)



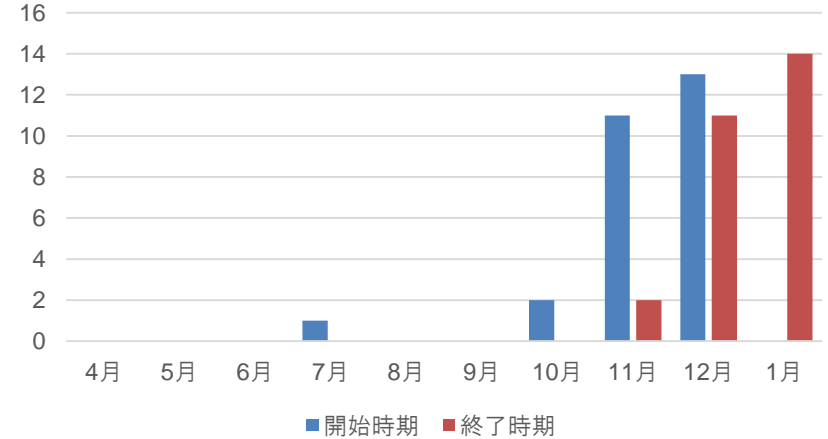
英語は比較的早い時期から使われ始めて、11月に終了する場合もありました。

Q3-2 「直前演習」のご活用状況について【活用時期】

日本史

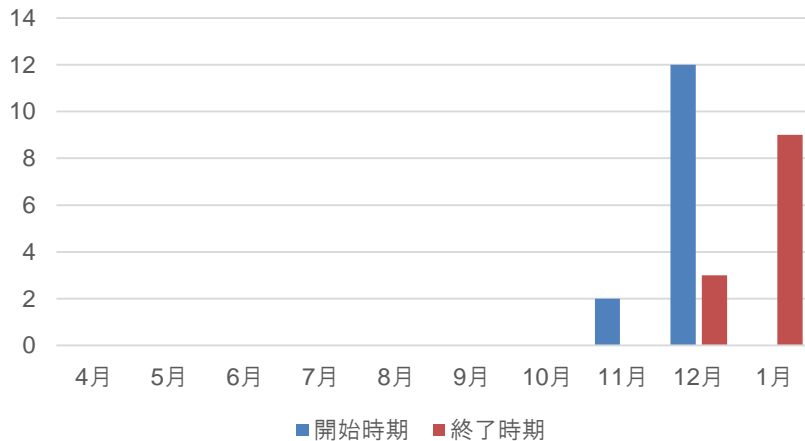


地理

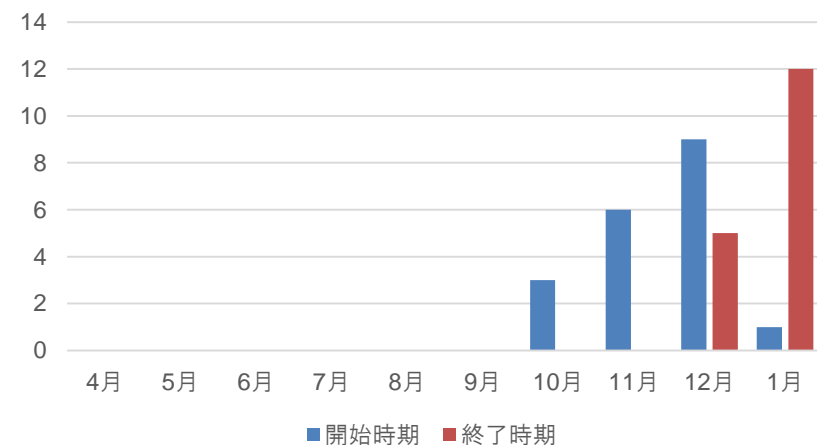


地理は、日本史と世界史にくらべて
11~12月のご使用が多いです。

世界史



公民



Q3-3 「直前演習」のご活用状況について 【生徒の得点確認】

	国語	数学	英語	物理	化学	生物	日本史	世界史	地理	公民	合計
「マーク集計Plus」	0	10	5	2	0	0	1	1	0	2	21
自己採点シート	7	10	22	3	2	4	5	5	4	3	65
マークシートリーダー	0	2	5	0	2	1	1	0	0	1	12

その他

- ・学校で作成した集計表を利用した。
- ・生徒自身で丸をつけて点数を報告させた。
- ・オンラインのアンケートツールを活用した。
- ・点数の集計については、大問ごとの集計用紙を各回ごとに切り取って提出できる用紙(小さな用紙で可)があれば使いやすい。
- ・毎時間提出させて、次の時間に返却した。
- ・レーダーチャート(左半分)に振り返り用の余白(右半分)をつけたプリントを活用している。
- ・自宅で問題に取り組ませて、明朝マークシートを提出させ、日中に集計して、放課後、集計結果を見ながら解説指導をしている。

98名(全体の約35%)の先生方が、何らかのかたちで得点集計をされています。

10年前の同様のアンケートでは、得点集計されている割合は15%でしたので、その割合が増えています。

得点集計により、平均点、正解率、誤答選択率などのデータを得ることができ、**理解度に応じた指導**を行うことができます。また、レーダーチャートを利用して**生徒自身が自分の課題に気づく**ことで、主体的に取り組むようになるというお話もお聞きしています。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【国語】

国語を教えていると思えない。

解説時間がゆっくりとれないので、効率よく解説できるようにしたい。

早く正確に解答をすること。

新傾向問題の対応に振り回される。

問われている学力の質は、何ら変化していないのに、問題のタイプに左右されてしまうことへの対応。

模試の成績に比べて本番で生徒が力が出せていないように感じた。

センター過去問とランズの問題集を並行して使った。新しいタイプの問題をさせつつ、センター過去問もやらせてよかったと考えているが、そのバランスややりはじめる時期などを今後も検討する必要があると思う。

自分自身の課題。次に3年生を指導する場合には、すべての模試が終わる12月以降に何か工夫した指導を試してみたい。

共通テスト本番は例年のセンター試験と同様、解答番号がひとつづきであったため、答えを2つ選ぶ問で1つしか選んでおらず、それ以降のマークが1つずつずれてしまった生徒がいた。模試もワークも共通テスト対策のものは大問ごとに解答番号がわかれており、上記のようなケースを生徒が想定できなかったため、練習や模試も本番と同じくひとつづきでマークする形式の方が良いと感じた。

マーク対策にならないように、記述力の養成が基本。

文系2次試験対策との兼ね合い。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【数学】

共通テストの出題内容がわからなかったので、指導の方向性を揃えるのが難しかった。

時間数(どのくらい必要か)および内容(どういう内容を生徒におさえさせていくべきか)の確認(今後、本校に適する方法が決まっていくと思います。)

数学を活用することの実践を積ませること。

読解・思考力の部分と数学の基礎的な学力とのバランスの取れた力の養成。

思考力問題に対して、いつから(いつ頃)、どのように取り組ませていくかの計画を立てること。

教科書と共通テスト問題を結ぶ問題集に適切なものがない。

共通テストは問題文を読む量が多いが、日頃の教材ではあまり読む量は多くない。

始まったばかりだから致し方ないが、共通テスト用の問題がまだ少ない。

苦手としている生徒への対策(センター試験でも変わらないが)。

2年終了時で数学の学力が高い生徒は対策はほとんど必要ないが、中下位層の生徒の点数が上がらない。努力が点数に反映しないので、他科目に時間を費やさせた方が合計点が上がる。

初見の問題への対応力を養成すること。

記述だと取れるのに、共通テストの出題形式に慣れず、思うように点が取れない生徒への対応。

今年の共通テストを見る限り、計算量はやや少なくなったが、それでも処理能力が必要と感じる。「思考力」と「処理能力」の指導のバランスが難しい。

新傾向への指導法、演習法がまだ少ない。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【英語】

1・2年次より、多くの英文に触れる必要があると考えるので、1・2年対象の共通テスト対策の問題集があるとよいと思います。

リーディング:多読 リスニング:音読

授業時間(1コマ45分)でテキストを使用してどう指導するか。

通常の授業中に対策を行うと80分の演習時間を確保するのが難しい。

情報処理の早さは必要だが、英文読解の対策はあまり必要ではない。つまり、対策をいつから始めるか、いつまで記述のしっかり読む系の指導を続けるか。

従来センター試験と形式が異なるので、文法・語法対策をどこまでどのようにしたらよいか。

本年度で言えば、試行テストを基準に対応を考えていたが、形式や難易度の変更が予想されたことが不安材料であった。しかしながら、大幅な変更がないことや、平均的な本校生が、共通テストの対応に要する時間や、提供すべき問題の難易度が明らかになったので、次年度については不安材料が減ったところです。

上位層には速度と精度を上げるために繰り返し取り組ませることと、私大二次対策を並行してさせること。

処理スピード。

今年度は初年度だったので、各社問題の質が均一でなかったこと。

質の良い教材が少ない。かといって自力で準備するには労力がかかりすぎる。

難易度が中程度の問題で量をこなすことが大事だとわかっているが、なかなかちょうどいいレベルの教材が見つからないこと。

本番の共通テストの形式が見えない中、演習中心になってしまった。思考力を養成することが課題。

まずは本番通りの試験を繰り返し体感させ、自分が得意な大問と不得意な大問に気づかせました。傾向として、リスニングの第4問Aと第5問が苦手な生徒が多く、その理由は、数字の聴き取りの難しさと、言語外の知識量の乏しさにありました。数の聴き取りに関しては、英語の授業内である程度伸ばすことが可能ですが、言語外の知識に関しては、教科横断的な学力が求められるので、高3の受験対策期までにどれだけ時事的な情報にアンテナをはって下ごしらえができていたかが、重要な鍵となります。つまり、英検準1級合格程度(CEFR B2レベル)で求められる、言語外の教養、主に日本語力と時事問題に関する興味関心を裏付ける知識量が重要だと考えています。

共通テストが実用英語にやや寄っている部分の対策。

イギリス英語や日本人の話す英語が混在する音源への対応
3人以上が話す音源があまりないことへの対応。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【日本史】

生徒にアウトプットさせる活動を入れていきたいと考えていますが、そのための授業での時間配分が難しい。

設問別正答率を分析すると、結局知識不足が課題だとわかった。資料読解は、多くの生徒が対応できる。

これまでのセンター試験の指導形式からなかなか抜け出せず、思考力が育成できるような授業になっていないと感じる。テスト自体の対策では、リード文が長くなり、読む速度が遅い生徒は不利になるので、形式に慣れさせる必要があると感じる。

テーマ別復習のような簡易なものがあれば生徒ももう少しハードルが低く感じられ、復習に力を入れることができたのではと思う。全体を網羅できる方法を考えたい。

資料や図表を活用した問題を探し、作成するのに手間がかかる。

新傾向問題を作成するのに苦労している。

各種資料からの読み取り。

対策問題が少ない。

問題集を作成した会社が少ない。

今年は共通テストが初年度ということもあり、類似問題集や予想問題集が少なかったのが困りました。

思考力・判断力などを問う問題集がまだまだ少ないため、演習をさせるにあたってもっとたくさん問題集が出てきてほしいです。また、授業で習うような歴史的な知識がなくても解ける国語力が問われる問題も多いので、その辺の指導が課題です。

従来のセンター試験よりも、対策課題として副教材(問題集等)を授業選択生徒全員に購入させ、実践的な演習授業を実施する必要性が高まったと認識している。

資料読解問題の演習量をどう確保するか。

演習時間の確保。

新傾向の形式の問題演習量が足りなかった。

今年をみるかぎりセンター試験の指導とあまり変わらないような…

今回の共通テストと次回の共通テストとでどれほど新傾向問題に違いがでるか予想しにくく、問題演習のやり方に工夫の必要性を感じる。

私大入試との差が大きい。

国語力のテストになっているように思う。

解答に幅があり、明確な正答でない問がある、ことがある。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【世界史】

資料問題の読み取り(解答)に時間がかかる生徒が多い。
出来事や資料の背景をしっかりと理解させる必要がある。

従来のセンター入試の内容と、実施された共通テストで大きな差が見られた。「考える設問」が劇的に増え、その内容を授業内で解説することも難しい。対応した問題を多く解かせ、解法への導き方を指導するために、適度な難易度の問題がより多く必要だと考える。

共通テストを意識したテスト問題を作成する際に、使用できる史料、図版を入手することが困難(時間的ゆとりがない)。

新傾向問題の問題数の少なさ。

今年度については、過去問(共通テスト)がなかったので、各出版社の問題が全く違って(難易度、分量など)、とても指導しづらかった。来年度以降は、今回の共通テストの分析に基づいた問題の作成をお願いしたい。

センター試験から大きく傾向が変わったため、過去問のない共通テスト型の演習の数をこなすための多くの問題が必要である。

単純な知識を問う過去問題はたくさんあるが、新テスト形式になっている問題集などが少ないこと。本来なら、新テスト用の演習を充実させたかったが、例年のことながら教科書の内容を終えるのが2学期末までかかってしまったため、演習の時間が十分に取れないこと。

史料比較や読み解き等の問題は、現場では教材として準備することが難しく、又、その時間の確保も課題。いわゆる新傾向といわれる問題演習を行える問題集があると助かる。できれば解説の充実した、生徒の自学用にも使用できるような。

バランス良く出来てとても良いですが、この問題ができれば、この問題も理解できる。
努力したことが、理解につながっていることが実感できるようなものになればよいと思います。
色々な問題を解いても苦手な生徒には解けない現状があります。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【地理】

普段の授業でなかなか課題研究が実施できないので、生徒が資料作成やそこから分析するなどの会話的な指導が十分でない。

従来の授業でも時間がないのに、知識の習得の時間がなくなっていくこと。

家庭やオンラインで、という声もあるがすべての科目でそうになったら生徒を学習に縛り付けることになる。

主体的な学び・探究的な学びの重要性はわかるが、すべての大学入試の形がそうなるわけではなく、大多数で知識の習得が求められている。

授業時数の関係から十分に思考させる時間が確保できない。

授業の単位数が少なく、共通テスト対策の時間がとりにくい。

問題形式に慣れさせる時間的余裕・教材を見つけられていないのが課題。直前演習のような形式で、もう少し易しめの問題集があれば、夏休み頃から少し演習させたい。直前演習の難易度では、早くから演習に使うには向いていない印象を受ける。

資料を集めるのが大変で、その見方を指導するのが大変。

資料をふんだんに用いた作問を地理ではしにくい。非常に作問で苦勞する。

新傾向の問題集が少ない。問題の作成に時間がかかる。

新傾向の問題を多く含んだ問題集が少ない。

何を問うているかを正確に素早く把握する力を身につけさせる。

初見の資料に対する対応力／資料読解力／基礎的・基本的事項の定着。

初見のデータなどを見て知識を運用して、ロジックを組み立てる力の醸成。

文章の読解力や思考力、グラフや表の読み取り（読図）の力が弱いので、その力が伸ばせるようにしていければいいと思います。

センター試験と比べ出題形式が変わった部分について、そのことをどのように指導していくか。

出題の傾向が不明瞭。

共通テスト第1日程と、第2日程の問題内容に、やや差があるように感じる。第1日程問題は「従来との変化」という点でやや極端過ぎ、一方、第2日程問題の方は旧センター試験との接続は強いように感じている。今後の方向性が、まだ見えにくい。

解説講義と自主学習のバランスが難しい。

「分からないところ」がそれぞれ違う場合があり、一斉指導や解説を読んだだけでは自分の間違いに気づかないこともあるので、そうしたことを最小限にとどめたい。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【公民】

公民	傾向の把握。
	1つの問題の分量が多いので、演習を授業時間の一部に導入しようとする時間がかかる(手間も)。バランスが難しい。
公民(現代社会)	現代社会を指導する中で、資料を活用した問題を作るのにどうしても手間がかかってしまう。
	共通テスト初年度だったため、問題の傾向がつかめなかった。 また、今年度は公民科目で得点調整が実施されたため、来年度の難易度も読みにくく困っている。 特に政治・経済の問題傾向(資料問題)はセンター試験と大きく異なっていたと感じているため、その対策をどのように行いか、教材も不足しているため困っている。
	初見問題への対応(久野靖、思考力・判断力・表現力の評価手法について(2017.4.3版)、情報処理学会 高校教科「情報」シンポジウム2017)←これをどう迎え撃つか
公民(政治・経済)	思考・判断力の育成と授業進度とのバランス
	今年の共通テストを見る限り、どのようにして論理的思考力を高めていくか。基本的知識すら覚え切れていない生徒の論理的思考力を高める練習をするのが難しい。
	思考力が非常に低い生徒が多いため、そもそも思考することを身に付けさせなければならない。 分野に関わらず、思考力を付けるために簡単な論理パズルのようなことから行くと本校では効果的だと感じた。
	資料問題の準備が大変なこと。
	資料問題の演習と解説にどう取り組むか。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【物理・物理基礎】

思考力の育成と基本事項の確認を両立させること。

提示された文字情報やデータの活用といった経験を、いかにして生徒にさせてあげられるか。

共通テスト対策における教科書の活用、幅広い学力層の生徒への対応。

もうできている生徒とまったくできない生徒がいて、一斉授業でやる難しさを感じます。

センター試験までと変わらないので、特に課題はない。

特筆すべきことはなし。必要な力はセンター試験の時から変化していないと思われるので。

新傾向についての対応。

問題文の分量が増加傾向にあると思うが、そういった部分に対応した問題集が少ない印象を持っている。

過去問が少ないため実践的な演習が行えない。

本質的な理解を必要とする出題に対する指導。

問題文から問われている知識が何なのかを見つけ出す力。

会話文形式の出題がなくなるのかどうか。

慣れていないので生徒は読むのに時間がかかる。

演習時間の確保。

本校では11月末から問題集で対策演習を行うが、生徒が解いた後の解説補足をする時間がとりにくい(たりない)。

時間管理。

授業時間(50分)と一回の長さの差をどうするか。

日常を題材にした問題設定に対応する力(初見の問題)で差がつきそうなので、それに対応できるような指導をいかにできるかが課題。

長い文章の問題や見たことのないグラフが使われた問題に対応する力の育成。

国公立大学の個別試験と共通テストに質(傾向)の違いがあるので、それを演習においてどう共存させるか。

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【化学・化学基礎】

<p>思考力といわれているが、知識を養ったうえでの思考力と考えているため、やはり基本的な知識の構築が必要不可欠ではないかと考えている。教科書の内容をしっかりと理解することに尽きると考える。</p>
<p>基礎知識の定着と、その知識の適切な活用法。</p>
<p>基礎事項定着の徹底と、読解力の向上。初見問題への対応は二次対策で十分。</p>
<p>化学は学習量がとても多い。基礎、基本の習得でも大変な中、思考力を問う問題まで、とても対応できない…</p>
<p>3年2学期中間までに教科書の学習を終えたいが、大変難しく、ぎりぎりになる。</p>
<p>教科書をすすめながらの演習は、時間の確保が課題。授業で教えることをあらかじめ減らすことも考えていかないといけない。</p>
<p>思考力問題やデータの読み取りについての対策が授業で十分に演習できていない。</p>
<p>実験や発展的な内容を扱うには授業時間だけでは難しい。</p>
<p>本校では2年から化学基礎、化学を学ぶので、触れている時間が短いこと。</p>
<p>対応する問題集が少ない。</p>
<p>化学を本質的に理解しておけば対応できると考えるが、演習を行う上で各社の問題集・模試にバラツキがあるためどこまでやらせるのか判断に苦慮した。</p>
<p>センター過去問中心か、2018試行調査向けか両方考えられたが、「2021直前演習」では形式は試行調査、内容はセンター過去問(2020、2019、2018)に沿った出題でよかった。</p>
<p>共通テストと強調された割には、本番の試験は化学については従来の指導においても十分に対応できる内容であったと思う。</p>
<p>時間内にしっかりと解くことができない。</p>
<p>時間内にすべて解けるようになる。60分の所を50分で行い、そのくらいで最後まで行けるようなイメージで指導しています。</p>
<p>時間配分／キーポイントとなる文章や言葉の探し方／量、質の確保。</p>
<p>問題が解けることと、理解していることの差を認識させること。</p>
<p>読解力と思考力の向上にはどうすべきか。</p>
<p>マークの仕方、文章を読み解く力の強化。</p>
<p>難化しているので、初見の問題を解く力。文章が長くなる可能性があるので、速読する力。</p>
<p>初見の題材に対する対応力の向上。初見の内容(実験手法、図、グラフ)等に対しての思考力を身につけさせること。</p>
<p>長文を読み解く力、および計算力アップ。</p>
<p>化学は、大問のリード文や問題文が長い場合は、読まずに選択肢直前の問の文章を読み、何を聞かれているか把握することを意識させている。問題を解くための情報について、必要最小限のところだけ読み、解くスピードをあげるため。</p>
<p>本校では12月、1月の授業が50分のままのため、60分の共通テスト模試を解かせて採点させても解説は別の日になってしまう。従来のセンター試験と変わらない基礎・土台をしっかりさせたいが、共通テストならではの新傾向の問題が多々ありすぎて対策しにくい。同じ教室内でも共通テストが必要ない生徒は自習させている。それは良いが、化学が必要な生徒でも実力差や意欲差が大きく、解説でも上のレベルに合わせてしまいがちになってしまう。</p>

Q4 共通テスト対策における指導上の課題【生物・生物基礎】

もともと教科書の量が多く授業がいっぱいいっぱいなのに加えて、「知識の復習・定着」にかかる時間と「初見のグラフや実験の考察力UPにかかる時間のバランスが難しい。

思考問題が増えてきたとはいえ、基礎事項の定着には一定の時間が必要であり、知識定着をどの程度に留めればよいのが難しい。

文章読解力、思考力をつけるには中高一貫高が必要。

グラフや表の読み取り。

数的処理、複数の知識の活用。

問題の文章そのものがとても分かりにくいので、内容の整理をさせるように指導しました。

文章を読むスピードが遅いため、設定時間内に解き終わらない。
分野の繋がりを意識できていない、分野毎の知識の詰め込みになっている。

各個人のつまずきの把握 ※にしたことでこれが把握しやすかった。
(※ 「レーダーチャート」(左半分)に振り返り用の余白(右半分)をつけたプリントを活用している。)

Q5 リーディングとリスニングの共通テスト対策指導で工夫されていること **【英語】**

単語、熟語、文法事項等を組み合わせて指導しました。(リーディング及びリスニング共に)

1、2学期の期末考査後に特別時間割を組み、リーディング、リスニングともに本番のシミュレーションを行っている。12月までにはある程度の完成を旨ざしている。

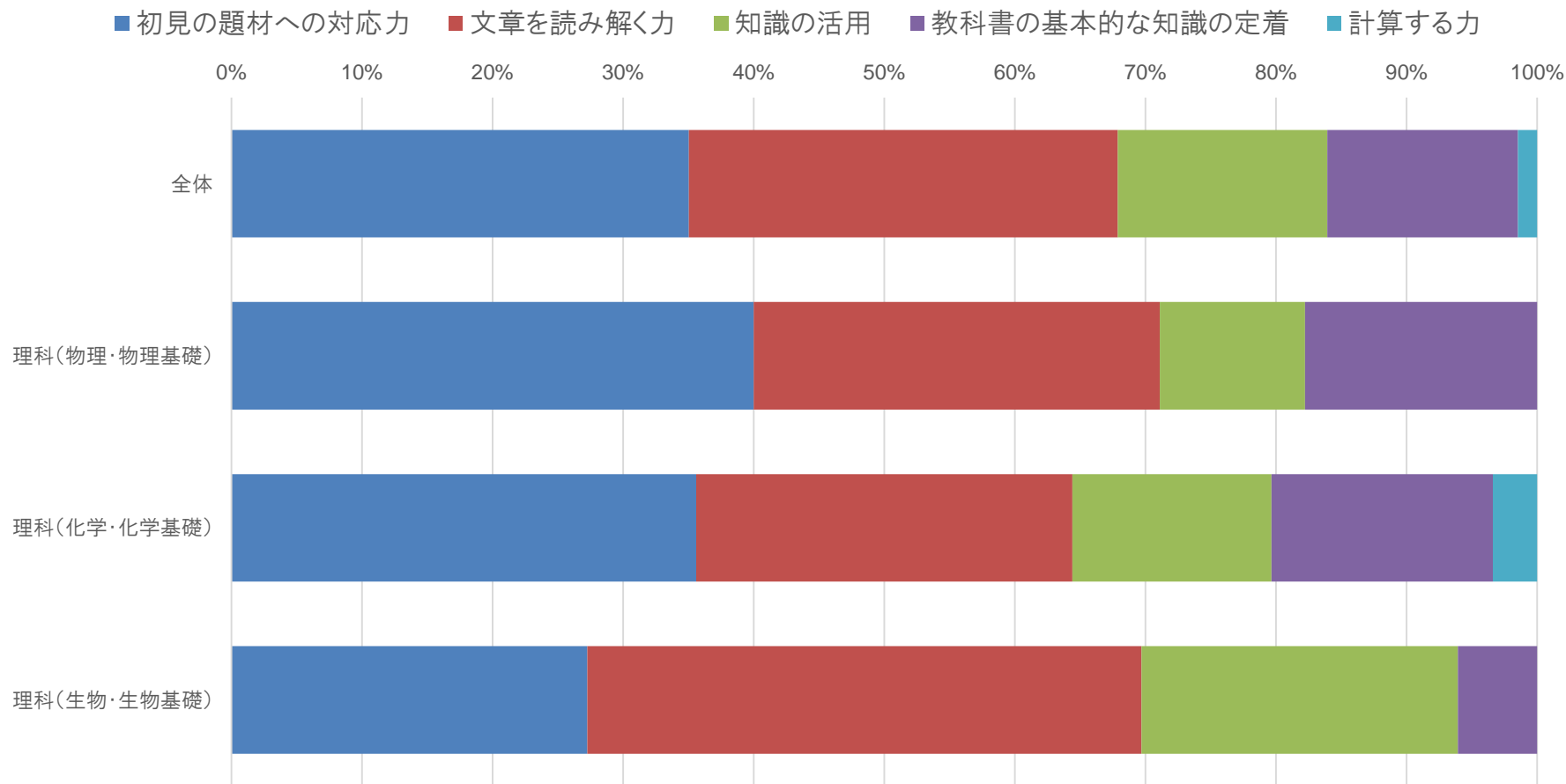
マーク問題ではなく、記述問題のCD を活用した。家庭でシャドーイングさせたり。

読んだら、聞く。聞いたら、読む。二つの技能をセットで考えるように伝えている。

解法の説明を丁寧に行うこと。

まずは出題形式を把握させ、速度と精度を上げさせるために時間を意識させたり、正答率にこだわって解答させたりした。

リスニングが不得意な生徒が多いクラスには、毎回リスニングテストを本番通り実施した後、リスニングスクリプトを用いてリーディング教材を扱うような指導をしました。具体的には、英日が左右対称に配置されているページを用いて、まずは単熟語・連語のスペルと発音アクセントと意味の確認、メッセージ全体で何を伝えているか大意をとる確認、音読指導をしたのち、ディクテーションシートを用いて、3回本文を聞かせました。1回で聴きとる力を育むことが目的なので、2回目以降は色ペンを用い、かつペアワークとしました。このワークを5回繰り返すと、かなり聴き取り力があがりました。

Q5 共通テスト対策で、特に重視すること・強化したいポイント **【理科】**

その他

共通テスト対策は、物理の全分野のもれない復習の機会になっている。(物理・物理基礎)
 情報を整理し、組み合わせ判断する力。(生物・生物基礎)



本社：〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17

本資料の内容を、無断転載することを禁止します。
各種コンテンツに転載する場合は事前に弊社までご連絡ください。
本資料に関するお問い合わせや、
教材のご注文・見本請求などは、下記窓口までお願いいたします。

ラーンズ お客様センター 0120-548155 通話料無料

受付時間/月～金 9:00～17:00 (祝日, 年末・年始を除く)